
ピザレストランでの戦い

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピザレストランでの戦い

【Nコード】

N5923Y

【作者名】

山野つつじ

【あらすじ】

アメリカのピザ ットは、水曜日には食べ放題ピザになります。舞台は、水曜日のピザ ット。

私は、アメリカ南部の小さな田舎町に住んでいます。

自然が豊かで、野生動物もたくさん。

何せ人口が少ないので、渋滞もなく、どこに行っても人が並んだり混雑しているところはありません。まあそんなところですので、住んでいる町には信号機はありません。

それでも交差点などで事故が起こらないというのは、田舎の人たちの人柄もあるでしょう。

ちよつとドライブすれば、知らない人が運転する車からは挨拶の手があたり、いくら人懐っこい私でさえも「あれは誰でしょう?」と思うことが頻繁にあります。

とまあ、そういう土地柄というのは、生活するには恵まれているのかもしれない。

しかし、それが全く覆されるような経験があったので、エッセイとして書いてみようと思ったわけです。

それは、私が家族でピザ ットにいった時の話しになります。

町にあるピザ ットは、水曜日にはピザの食べ放題になります。

サラダはいつも食べ放題なのですが、水曜日になると中央にあるテーブルには大きなピザが五枚乗るようになっていて、横には簡易サラダバー。

みなさんもそうでしょうけど、「食べ放題に行く!」ということは、「ガッツリいくぞ!いつでも来いっ!」という状態なわけですので、その日はもちろん私も主人も戦闘準備でした。

店に入った時に店内を見渡してみると、60歳以上と思われる方々が八人程と若者が二人。

マークすべきは若者の食に対するガッツといったところでしょうか。

まずは、サラダを軽く食します。

水泳前の準備運動といえればよろしいでしょうか。

私も主人も焼き上がりのピザに備えての軽い腕試しです。

この時、店内のテーブルは三つ。

高齢者グループ、私たち家族、若者。

各テーブルは、ほぼ同時にサラダで準備体操です。

問題は、サラダの準備体操の後です。

焼き上がりのピザが中央のテーブルに乗った瞬間、高齢者グループ一斉に立ち上がりました。

八人の高齢者たちは、一斉に焼きあがりピザに集中です。

私たち家族と若者は、この時点で既に出遅れてやむなく次の焼き上がりを待たなければなりませんでした。

しかし待っている間にサラダを更に食べてしまうと、負けた気がします。

何かと戦っている訳ではないのですが、サラダでお腹が一杯というのは敗北そのもののような気がするのです。

仕方なしに、次のピザを待つしかありません。

その間に、焼き上がりピザを手にした高齢グループを見ると、とても体の大きい男性が呼吸器をつけていました。

私はその時気が付いたのです。

呼吸器をつけてまで来るピザ　ットの食べ放題は、そんなに甘いものではないのだと。

そうです、予想した通りです。

次の焼き上がりのピザができると、高齢者グループはまたもや一斉に立ち上がるのです。

今回ばかりは負けていられない！

サラダで満腹になっていられない！

大和魂みせてやる！

そんな気持ちで私も一緒に立ち上がっては見たのですが、そこはやはり日本人。

負けまいと思っっている戦なのに、少し体が触れそうになると「うぞ」なんていつている自分。

こんな時は、日本人の謙虚さや優しさが裏目に出てしまいます。かろうじて、アメリカ人の夫が私のためにガッツを見せてくれました。

それでもお互い、ピザー一枚で次の焼き上がりを待たなければなりません。

若者グループを見てみると、彼らは戦闘を初めから放棄し、サラダの道を選んでいました。

ここで私が「若者よ！闘士を燃やせ！」と喝をいれられたら、さぞ格好よかったのかもしれませんが。

まあ、それが出来ないからこそ高齢者グループに二度目の敗北をくらったのですから。

三度目のピザ焼き上がりになると、高齢者グループの全員参加がなくなりました。

それでも、五分以内には焼きあがりピザの更には何も残らない状態。

田舎のこの地域では、信仰心がとても厚く、レストランの数以上に教会があります。

そんな地域でのこの戦いは、宗教心などというものは、食べ物には皆無であるということを感じました。

私たち家族と若者が、ダッシュすることなく焼き上がりピザを手にすることができるようになるまで、おおよそ40分程でした。

若者は既にサラダで敗北し、私たち家族は時間の経過による満腹感にて敗北したわけです。

恐るべし、高齢者グループの圧勝です。

私は学びました。

「食べ放題」では、子どもであろうと高齢者であろうと、対等に戦わなくてはならない。

それは、自然界で言うところの弱肉強食の世界。

さすがにここは自然がたくさんあるだけに、私も自然の掟に従わなければならないと…。

(後書き)

レストラン名は を入れて、御想像の粹にお任せするという形にさせて頂きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5923y/>

ピザレストランでの戦い

2011年11月18日03時52分発行